

成都方言における“倒 [tau⁵³]”の意味・用法について

藤原 優美

The Meaning and Usage of “Dao[tau⁵³]” in the Chengdu dialect

Yubi FUJIWARA

“Dao[tau⁵³]” is commonly used in the Chengdu dialect, and its grammatical meanings and syntactic functions are very complex. This study aims to investigate “Dao[tau⁵³]” in the Chengdu dialect, providing a comprehensive overview of its meaning and usage in comparison to Mandarin (Standard Chinese).

“Dao[tau⁵³]” in the Chengdu dialect is used not only as a basic verb but also as a complement and a particle. When used as a complement, it can function as both a directional complement and a resultative complement. As a particle, it can indicate the progression of an action or the continuation of a situation, and sometimes it loses its lexical meaning and grammatical function.

I. はじめに

1. 問題提起
2. これまでの先行研究について
3. 本研究の研究手法

II. 成都方言における“倒 [tau⁵³]”について

I. はじめに

1. 問題提起

成都方言における“倒”は日常生活でよく使われることばであるが、複数の意味・用法を持ち、普通話（共通語）における“倒”と違うため、非母語話者や学習者にとって理解しにくく、誤用・誤解しやすいことばの一つでもある。

『成都話方言詞典』（1987:49）では、“倒 [tau⁵³]”は①助詞、“着”“住”に相当；②補語、“到”に相当；③補語、“了”に相当と示されている。

(1-1) 他 走 倒 走倒 就 昏 了。

彼 歩く “着”に相当 ～するとすぐに

気を失う ～た

(彼は歩いているうちに気を失った。)²

(『成都話方言詞典』1987)

1. 動詞としての意味・用法

2. 補語としての意味・用法

3. 助詞としての意味・用法

III. おわりに

(1-2) 小心！ 不要 滾

気をつける ～しないで 転がる

倒 沟沟 头 去。

“到”に相当 溝 中 へ

(溝に落ちないように、気をつけて！)

(『成都話方言詞典』1987)

(1-3) 我 作 不

わたし する 否定を表す

倒 主。

“了”に相当 主 / 責任者

(わたしの一存では決められない。)

(『成都話方言詞典』1987)

上記 (1-1) では“倒”は歩く動作の進行を表し、「～している」の意味となる。これは普通話（共通語）の“着”に相当し、助詞として用いられている。(1-2) では、“倒”は補語として用いられ、

普通話（共通語）の“到”に相当する。(1-3)では、“倒”も補語であり、普通話（共通語）の“了”に相当する。

『成都方言詞典』（1998:202）では、“倒 [tau⁵³]³”の意味・用法について以下のように示されている。①動作の持続を表す；②状態の持続を表す；③動詞または程度を示す形容詞の後に付き、命令や言いつけのニュアンスを強める。なお、①の場合、“起 [tɕi⁵³]⁴”に相当、特定の形容詞の後に用いて、性質・状態の継続を表し、どうしようもないというニュアンスがある。

以上の方言辞典から見れば、成都方言における“倒 [tau⁵³]⁵”は助詞としても補語としても用いられ、動作や状態の持続を示し、場合によって命令や言いつけ、どうしようもないといったニュアンスを表すことがわかる。しかし、助詞や補語以外、“倒 [tau⁵³]⁶”はまず、動詞として用いられ、「倒れる、横になる」などの意味・用法を有する。また、中国語の補語にはさまざまな種類、例えば、方向補語、結果補語、様態補語などがあるが、成都方言における“倒”は具体的にどの補語のどのような意味を持っているのかについて細かく分析する必要がある。

一方、『成都話方言詞典』（1987）でも『成都方言詞典』（1998）でも“倒 [tau²¹³]⁷”と組み合わせた単語が載っている。例えば、倒飯 [tau²¹³ fan²¹³]（恥をかく『成都話方言詞典』1987:50。ご飯を捨てる、クビになる、恥をかく『成都方言詞典』1998:203）、倒茶 [tau²¹³ ts^ha²¹³]（お茶を捨てる、お茶を淹れる）、倒酒 [tau²¹³ tɕiəu⁵³]（酒を入れる）など。つまり、成都方言における“倒”は二種類の読み方があり、それぞれ意味・用法を持っている。

本研究では、成都方言における“倒 [tau⁵³]⁸”について、その意味・用法を考察するが、“倒 [tau²¹³]⁹”については今後の機会に譲る。

2. これまでの先行研究について

現代中国語における“倒”は実詞⁵としても虚詞⁶としても用いられる。とりわけその多様な虚詞の意味・用法は方言においてよく見られる。しかし、各方言の統語的制約にしたがって、具体的に使用される際の“倒”の意味解釈や文法的機能などに差が存在する。20世紀80、90年代より方

言における“倒”に関する先行研究が行われてきたが、成都方言の場合、方言辞書のほかに、“倒 [tau⁵³]¹⁰”については、類似表現の“起 [tɕi^h53]”との対照分析が主になっている。張清源（1991）、張一舟・張清源・鄧英樹（2001）、李苑（2008）などがあげられる。

張（1991）では、“倒 [tau⁵³]¹¹”と“起 [tɕi^h53]”は補語とアスペクト助詞として用いることができる。補語の場合、普通話（共通語）の“倒 [tau²¹⁴]¹²”や“着 [tʂau³⁵]¹³”、“住”、“到”などに相当する。アスペクト助詞⁷の場合、普通話（共通語）の“着 [tʂə]¹⁴”に相当すると述べている。

張・張・鄧（2001）では、“倒 [tau⁵³]¹⁵”と“起 [tɕi^h53]”の持続義について共起する動詞を比較した。“倒 [tau⁵³]¹⁶”は主に動態動詞⁸と組み合わせる動作の進行を表し、“起 [tɕi^h53]”はよく静態動詞⁹（形容詞も含む）と結合して状態の持続を表す。なお、“V 倒 V 倒 + 又 / 就……”の構文において、動作・行為または状態の繰り返しを表すため、Vは動態動詞のほか、静態動詞も使えると指摘した。

李（2008）は上記の先行研究を踏まえながら、成都方言における“倒 [tau⁵³]¹⁷”と“起 [tɕi^h53]”の意味・用法についてさらに考察した。その結果、両者はともに趨向動詞¹⁰であり、動詞の後ろに置かれて方向補語として、動詞または形容詞の後ろでは結果補語として用いる。また、アスペクト助詞として動詞の後ろにくっつき、動作の進行または状態の持続を表す。なお、“起 [tɕi^h53]”の独自の意味・用法として、特定の動詞と共起し、動作・行為の完成を表すことができる。

これまでの先行研究を通して、ある程度成都方言における“倒 [tau⁵³]¹⁸”の意味・用法を把握することができるが、説明不足や内容が曖昧なところ、検討すべきところもある。

具体的に見れば、方言辞書の場合、『成都話方言詞典』（1987）では、“倒 [tau⁵³]¹⁹”は①助詞として用いる場合、“着”“住”に相当すると示したが、漢字“着”は複数の読み方（[tʂə]、[tʂau⁵⁵]、[tʂau³⁵]、[tʂuo³⁵]）を持っていて、それぞれの意味・用法が違うため、助詞の“着”に相当することやその発音、つまり [tʂə] であることを明白に示す必要がある。③補語、“了”に相当する場合も同様、アスペクト助詞の“了 [lɛ]”ではなく、「動詞 + 得 / 不 + 了」の形で実現の可能性を示す結果

補語として用いる“了 [liau²¹⁴]”であることを示した方がよい。また、普通話（共通語）の“住”は助詞としての意味・用法がない。辞書の例文を見れば、“把猪拦倒！（豚を止めて！）”。動詞の“拦”は「止める」意味で、その後の“倒”は動作・行為の結果、つまり豚が逃げないよう、動かないようしっかりと固定することを表す。普通話（共通語）の“住”の結果補語としての意味・用法と同じである。そのため、助詞の分類に“住”の解釈及び例文を入れるのは妥当ではない。さらに、②、③の解釈に「補語」であることが示されているが、中国語の補語にはさまざまな種類があるため、具体的にどの補語のどのような意味にあたるのか、説明する必要がある。一方、『成都方言詞典』（1998）の場合は意味・用法や例文を示したものの、品詞については言及していない。

先行研究においては、“起 [tɕʰi⁵³]”と対照し、その異同に重点を置いているため、対照としていない“倒 [tau⁵³]”の独自の意味・用法については触れていなかった。また、意味・用法について研究者による見解が分かれているものもある。張・張・鄧（2001:335）では、“倒 [tau⁵³]”は固定文型「V + 倒 + N_L¹¹」においては介詞¹²と見なすことができると示したが、接辞や助詞として考察する研究者もいると指摘した。一方、李（2008:81）では“你把表巴倒黑板上嘛”という例文があげられているが、張・張・鄧（2001:335）が示した固定文型「V + 倒 + N_L」に当てはまり、“巴（貼る）”はV、“黑板（黑板）”はN_Lである。しかし、李（2008）の場合、例文中の“倒”を結果補語と見なしている。本研究では、「V + 倒 + N_L」構文における“倒 [tau⁵³]”について本研究の見解を示した上で考察を進めたい。

さらに、先行研究には一つの意味・用法に対して複数の解釈ができる例文をあげたことが見られる。例えば、李（2008）では、“倒 [tau⁵³]”の方向補語としての意味・用法を説明する際にあげられた例文“你睡倒，莫起来哈”“你坐倒看嘛，莫挡倒别个”は前文・文脈がないため、複数の解釈ができる。“你睡倒，莫起来哈”については、一つ目は、「横になったままで、起きないでください」という意味で、この場合、聞き手は横になっている状態で話し手のことに気付いて、起きようとするが、話し手はそれを阻止し、聞き手は結局起き

ずに横になった状態を維持したということになる。二つ目は、「起きないではやく横になってください」という意味で、この場合、聞き手は話し手のことに気付いて、横になっている状態から一度起きて、話し手は起きた状態から横になる状態に戻るよう、聞き手に話かけたということになる。前者の場合、“倒”は上から下への移動を表せず、持続の意味を表すため、方向補語ではない。後者の場合、聞き手/動作主の身体が高い位置から低い位置へ、つまり横になる移動があるため、方向補語の意味・用法にあたる。“你坐倒看嘛，莫挡倒别个”については、一つ目は、「他の人の邪魔にならないように座ったままで見てください」という意味で、この場合、聞き手はよく動いたり、時に立ち上がったたりするので、ちゃんと座るように話し手が注意したということになる。その場で立つ状態から座る状態への変化を要求するのではなく、鑑賞する際に座っている状態を維持するように要求しており、つまり、“倒”は前の動詞“坐（座る）”が表す動作の持続を表す。そして、“坐倒”は後ろの動詞“看（見る）”の状態語と見なすことができる。二つ目は、「他の人の邪魔にならないように座って見てください」という意味で、この場合、聞き手が立っているの、話し手は座るように注意したということになる。“倒”は高い位置から低い位置への移動を示すため、方向補語となる。そして、“坐倒”と“看（見る）”は連続動作となる。よって、複数の解釈ができる例文を一つの解釈のみの意味・用法の例としてあげるのには適切ではない。複数の意味・用法がある場合、どの意味・用法に当たるのか、明白に説明する必要がある。

本研究では、先行研究などを踏まえながら、“倒 [tau⁵³]”の意味・用法の全体像を明らかにすることを目指す。品詞に関しては、助詞や補語を含め、動詞も対象とする。また、考察の際、普通話（共通語）との対照も兼ねる。

3. 本研究の研究方法

本研究では、成都方言における“倒 [tau⁵³]”について、品詞ごとに意味・用法を整理し、具体例をあげながら分析を行う。具体例は方言辞書、先行研究のほか、主に『西蜀方言』（1900）、『民国四川話英語教科書』（1917）、小説『兩代滄桑』

(2015)、『中国語言文化典蔵 成都』(2022)より抽出した。なお、例文が成都方言かどうか、その意味・用法についての判断は、インフォーマント¹³として成都方言の母語話者にご協力いただいた。

『西蜀方言』(1900)は、清朝末期に宣教師である Adam Grainge (鍾秀芝) が編纂した蜀方言の辞書である。十九世紀末の四川西部の方言状況を如実に反映しており、音声、語彙、文法、民俗学など幅広い分野の内容を網羅した。辞書であると同時に、当時の宣教師が現地のことばを学習するための教科書でもある。本には13000以上の用例が掲載されている。全て口語に基づくものであり、文語や外来語は含まれていない。なお、例文を抽出する際、成都方言であるかどうかは母語話者に確認し、判定してもらった。

『民国四川話英語教科書』(1917)は、百年も前に出版された方言の教科書“Chinese Lessons for First Year Student in West China”の影印本である。本には当時、現地の人々が日常よく使う、比較的簡単なフレーズを多く取り入れられ、中英対訳で示している。書名には「四川話」と書かれているが、英語の序文には、成都方言にしたがって発音を表記したと示されている。この書籍から例文を抽出する際にも母語話者に確認し、判定してもらった。

『兩代滄桑』(2015)は、約百三十五万字のノンフィクション長編小説であり、徹底的に方言で書かれたものである。これまでの方言小説は、より多くの読者にわかってもらうため、文中の人物の会話は方言を使用し、その他の文章については、昔は白話¹⁴、現在は普通話(共通語)で書かれている。しかし、『兩代滄桑』の場合、著者自身は成都方言の母語話者であるにもかかわらず、文献調査や語句等の検証、何十人もの成都生まれ成都育ちの母語話者へのインタビューを通して、全文は忠実に成都方言・四川方言¹⁵で書かれている。したがって、抽出した例文は本研究での分析対象としてふさわしいと判断した。なお、『兩代滄桑』より抽出した例文は成都方言なのか、それともその上位範疇の四川方言なのかについては、成都方言の母語話者に確認し、判定してもらった。

『中国語言文化典蔵 成都』(2022)は、成都方言及び成都の民俗文化などについて調査した内容

を記録したものである。住宅建築、生活用具、衣服、食生活、農業と工業、日常活動、冠婚葬祭、伝統行事、伝統芸能関係の9章に分かれており、成都方言の語句の解釈や大量の写真、とりわけ本の最後に成都の俗語やことわざが載っている。この書籍から抽出した成都方言の語句は本研究での分析対象としてもふさわしいと考えた。

なお、1900年代に出版された『西蜀方言』(1900)、『民国四川話英語教科書』(1917)と21世紀に出版された『兩代滄桑』(2015)、『中国語言文化典蔵 成都』(2022)を資料として用いるのは、成都方言における“倒”の意味・用法に変化があるかどうかを考察するためである。

II. 成都方言における“倒 [tau⁵³]”について

1. 動詞としての意味・用法

成都方言における“倒 [tau⁵³]”の基本義は動詞として用いる場合、「倒れる、横になる」「(店などが)つぶれる、(事業などが)失敗する」などの意味を表す。普通話(共通語)の“倒 [tau²¹⁴]”にも同じ意味・用法があるが、普通話(共通語)にない成都方言独自の意味・用法も持っている。

- (2-1) 房子 倒 了。
家 倒れる ~た
(家が倒れた。)
(『西蜀方言』1900)
- (2-2) 字号 倒 了。
老舗 つぶれる ~た
(老舗がつぶれた。)
(『西蜀方言』1900)
- (2-3) 倒 右手 拐
まがる 右側 角/まがる ところ
(右にまがる。)
(『民国四川話英語教科書』1917)
- (2-4-1) 倒 他 的 烩子
倒す 彼 の 七輪
(彼を失敗させる。)
(『西蜀方言』1900)
- (2-4-2) 自从 与 张主任 结了怨,
~から と 張主任 不仲になった
老马 专门 跟他 倒 烩子。
馬さん わざと と 彼 倒す 七輪

(張主任と不仲になってから、馬さんはわざと彼の足を引っ張るようなことをしている。) (『成都話方言詞典』1987)

- (2-4-3) 他 做出 这种 事, 硬是
 彼 する この ような こと 本 当 に
 倒 我 们 家 的 烊 子 哦。
 倒 す 我 が 家 の 七 輪 語 気 助 詞
 (彼はこんなことをするなんて、本当に
 我が家に恥をかかせたよ。)
 (『成都方言詞典』1998)

- (2-5) 他 先后 参与 川 军 倒
 彼 次 々 と 参 加 参 加 四 川 軍 倒 す
 蒋 活 动 两 次
 蒋 介 石 活 動 二 回
 (彼は四川軍が蒋介石を倒す革命運動に続
 けて二回参加した。)
 (『两代滄桑』2015)

(2-1) (2-2) の場合、“倒”は動詞、文の述語であり、それぞれ「倒れる」「つぶれる」の意味を表す。この意味・用法は普通話(共通語)の“倒 [tau²¹⁴]”にも見られるが、(2-3) (2-4-1/2/3) (2-5) は普通話(共通語)にない意味・用法である。(2-3) では、“倒拐”というフレーズが使われているが、成都方言独自のことばであり、普通話(共通語)の“拐弯、转弯(角をまがる)”に相当する。文中の“右手”は“拐”を修飾し、まがる方向を示している。“倒”は動詞で、「まがる」の意味を表す。なお、“拐”は成都方言において、動詞としても名詞としても用いられるが、ここでは角、まがることを示す名詞である。(2-4-1/2/3) は“倒烊子”というフレーズが使われていて、直接的には「七輪を倒す」という意味になり、“倒”は動詞、“烊子(七輪)”は動作の対象となるが、ここでは慣用句的な使い方、「足を引っ張る、失敗させる、恥をかかせる」といった意味を表す。また、(2-4-1) と (2-4-3) では、動詞“倒”と目的語“烊子(七輪)”間に“他的(彼の)”や“我们家的(我が家の)”といったことばがあるが、目的語を修飾し、その所属を表している。つまり、(2-4-1) は彼の足を引っ張る、彼に失敗させるといった意味であり、(2-4-3) は我が家に恥をかかせるという意味になる。(2-4-2) の場合は、張主任と不仲になってから、馬さんはわざと彼(張主任)の足

を引っ張るようなことをしているという意味である。(2-5) では、“倒”も動詞として用いられており、“蒋(蒋介石)”は動作の対象となる。

以上のように、成都方言における“倒 [tau⁵³]”は動詞として用いる場合、「倒れる、横になる」「(店などが)つぶれる、(事業などが)失敗する」などの意味を表すことができる。これらについて普通話(共通語)の“倒 [tau²¹⁴]”にも同じ意味・用法がある。一方、成都方言では“倒拐”や“倒烊子”といった独自のフレーズや慣用句的用法を持っている。さらに、成都方言における“倒 [tau⁵³]”の「倒れる/倒す」という意味・用法に関しては、自動詞的・他動詞的の両方ともに用いられる。普通話(共通語)の場合、例えば、“打倒(打ち倒す)”、“推倒(押し倒す)”など、“倒”を他動詞的に用いるにはほかの動詞と組み合わせる必要がある。

2. 補語としての意味・用法

これまでの先行研究では、成都方言における“倒 [tau⁵³]”の補語の意味・用法は方向補語と結果補語があると指摘しているが、I. 2. でも述べたように、どの意味・用法に属するのかについて研究者による見解が分かれている場合もある。とりわけ「V+倒+N_L」の構文において、“倒”は介詞なのか、方向補語なのか、あるいは結果補語なのか、ここではまず、本研究の見解を示したい。

現代中国語における介詞について、英語の前置詞と似ていると言われているが、劉丹青(中国語版2017、日本語版2022:136、137)¹⁶は「前置詞(preposition)のみならず後置詞(postposition)も介詞(ad-position)に属す」、中国語は前置詞と後置詞の並存する言語であると主張した。ただし、前置詞はすべて動詞に由来し、後置詞の多くは方位名詞に由来したが、非方位後置詞も存在することも指摘した。由来から考えると、“倒”は介詞であれば、前置詞に当たる。一方、中国語の介詞は虚詞に属するため、単独で使用することができず、名詞(句)(ときには動詞句や形容詞)と組み合わせ、介詞フレーズを構成する。文中で連用修飾語として、場所、時間、原因、対象などを表す。つまり、語順は動詞の前に置かれることとなる¹⁷。しかし、張・張・鄧(2001:335)でも示したように、「V+倒+N_L」の構文において、“倒”は動詞の後ろしか使えず、動詞の前に置くことができない。

また、「V+ 倒 + N_L」は「V 倒」+ 「N_L」の組み合わせであり、「V」+ 「倒 N_L」ではない。さらに、朱徳熙 (中国語版 1982、日本語版 1995)¹⁸では、“送到家里「家に送り届ける」”の構造を分析する際、「“送到/家里”と分析されるべきものであって、“送/到家里”ではない。“送到”は動補構造である」朱 (1995:235) と指摘した。よって、本研究では、「V+ 倒 + N_L」の構文にける“倒”を介詞として見なさず、補語と見なす。

- (2-6) 小心！ 不要 滾
 気をつける ～しないで 転がる
 倒 沟沟 头 去。
 “到”に相当 溝 中 へ
 (溝に落ちないように、気をつけて！)
 (『成都話方言詞典』1987 (1-2) 再掲示)

(2-6) は前述 (1-2) の再掲示であり、『成都話方言詞典』(1987) の例文である。『成都話方言詞典』(1987:49) では、“倒”は補語として用いられ、“到”に相当すると示したが、方向補語なのか、結果補語なのかについては述べられていない。普通話 (共通語) “到”について、呂叔湘 (中国語版 1980、日本語版 1992)¹⁹によれば、趨向動詞として用いる場合、「V + 到 + N_L」の構文で“到”は「人または物が動作とともにある場所へ到達したことを表す」(呂 1992:83)。また、「V + 到 + N_L」の構文について、名詞は動作が継続した時間、動作や状態が到達した程度を表す場合も同じく趨向動詞のカテゴリーに入れている (呂 1992:83、84)。ほかに、呉福祥 (2002:28) では、中国の南方方言²⁰における“到 (倒)”が動詞の後ろに置かれた意味・用法の一つとして、方向補語があげられている。具体的には、①物 (主体/客体) が移動した場所を表す。②動作や状態がある時点まで継続することを示す。③動作が関わる対象や範囲を示す。④状態が達する程度や幅などを表すと述べられている。本研究でもこれらの先行研究にしたがい、「V+ 倒 + N_L」の構文における“倒”は方向補語と見なす。

(1) 方向補語としての意味・用法

- (2-7) 赶紧 睡 倒
 大急ぎで 寝る / 横になる “下”に相当

(はやく寝て)

(『四川方言詞典』2014)

- (2-8) 把 条子 送 倒 春熙路
 ～を メモ 送る 方向補語 地名
 三益公 浴室
 店名 銭湯
 (メモを春熙路の三益公という銭湯の店に送って。) (『兩代滄桑』2015)
- (2-9) 米 箩筐 跳 倒 糠 箩筐。
 米 かご 飛ぶ 方向補語 ぬか かご
 (良い環境から悪い環境になった。)
 (『中国語言文化典蔵 成都』2022)

(2-7) では、“赶紧 (大急ぎで)”があるため、聞き手はまだ寝るまたは横になっている状態ではないことが判断できる。話し手は聞き手にはやく横になるように催促し、身体の移動は高い位置から低い位置へ、『四川方言詞典』(2014:72) で注釈のあった“下”に相当がふさわしい。つまり、この“倒”は方向補語として用いられ、上から下への方向を示す普通話 (共通語) における“下”に相当する。なお、“赶紧 (大急ぎで)”がない場合、聞き手が横になっている状態であるかどうか判断できないため、方向補語以外に、もう一つの解釈がある。つまり、聞き手がすでに横になっている状態であれば、“倒”は動作の持続を表す助詞となる。(2-8) では、“倒”も方向補語であり、“条子 (メモ)”は聞き手 (動作主) とともに“三益公浴室” (場所) に到着することを表す。(2-9) の場合、“倒”は動作主自身が動作とともに“米箩筐 (米のかご、良い環境を指す)”から“糠箩筐 (ぬかのかご、悪い環境を指す)”に移動したことを表した。(2-8) (2-9) の“倒”は「人または物が動作とともにある場所へ到達したことを表す」普通話 (共通語) の“到”に相当する。その他、日常生活では、“睡倒晌 [sau⁵³] 午 (昼まで寝る)”がよく言われている。この場合、“倒”は動作が継続した時点を示し、方向補語となる。なお、方言辞書や先行研究には動作や状態が到達した程度を表す“倒”の例文が見当たらなかった。

(2) 結果補語としての意味・用法

成都方言における“倒 [tau⁵³]”は動詞や形容詞の後ろに置かれ、動作が目的に到達したことや

動作・行為がもたらす結果などを表すことができる。この場合、“倒”は結果補語となる。

(2-10) 跌 倒 了
 転ぶ 倒れる ~た
 (転んだ) (『西蜀方言』1900)

(2-11) 好, 这一下子 要 锁 倒。
 よし 今回 する 鍵を掛ける
 しっかりと固定する
 (よし、今回はしっかりと鍵を掛けるよ。)
 (『民国四川話英語教科書』1917)

(2-12) 信 夹 在 里头, 看 倒 没有
 手紙 挟む に 中 見る 届く ない
 (手紙は中に挟んでいる。見えた?)
 (『民国四川話英語教科書』1917)

(2-13) 把 墙 推 倒
 ~を 壁 押す 倒れる
 (壁を押し倒す) (『西蜀方言』1900)

(2-14) 是真的 冷 倒 了 还是
 本当に 寒い ~に陥る ~た それとも
 伤心 到 蛀 了。
 悲しむ 非常に ~た
 ((彼は) 本当に凍えたのか、それとも悲し
 すぎたのか。) (『两代滄桑』2015)

(2-10) では、“倒”は動作“跌(転ぶ)”がもたらす結果「倒れる」ことを示した。普通話(共通語)の“倒”が結果補語となる際の意味・用法と同様である。(2-11)では、他人に勝手に開けられないように鍵をしっかりと掛けるという内容であり、“倒”は動作の目的、しっかりと固定することを意味する。普通話(共通語)の結果補語“住”に似ている。(2-12)では、手紙の有無を確認するため動作を行い、その結果として見えるかどうかを話し手が聞いている。ここの“看倒”は普通話(共通語)の“看到”に相当する。(2-13)は処置文であり、壁(動作対象)を押すという行為の結果を示した。一方、“墙遭推倒了(壁が押し倒された)”のように、“倒”は受身文でも使える。(2-14)では、“倒”は形容詞の後ろに置かれ、寒くて凍える状態に陥ることを表している。これは普通話(共通語)“着 [tʂau³⁵]”の意味・用法の一つと同じである。また、(2-10)(2-14)から分かるように、“倒”はアスペクト助詞の“了”と

一緒に使うことができる。

上記のことから、成都方言における“倒 [tau⁵³]”は動詞や形容詞の後ろに置かれ、結果補語として用いられる際、普通話(共通語)の“倒”の意味・用法に似ているほか、“住”、“到”、“着 [tʂau³⁵]”とも対応させることができる。よって、成都方言における結果補語としての“倒 [tau⁵³]”は多義であることが分かる。なお、動詞と補語は生産的な結びつきで、本研究で考察した以外の対応もあると推測できる。

(3) 「V + 得 / 不 + 倒」

中国語の可能表現には、方向補語と結果補語から派生してできたものがある。動詞と、方向補語または結果補語の間に、肯定の場合は“得”、否定の場合は“不”を挿入する。つまり、「V + 得 / 不 + 方向補語 / 結果補語」の形となる。上記(1)(2)で述べたように、成都方言における“倒 [tau⁵³]”は方向補語としても結果補語としても使える。「V + 得 / 不 + 倒」の形で“倒”が示す結果が実現可能かどうかを表すことができる。

(2-15) 找 得 倒
 さがす 結果補語
 (見つけられる)
 (『民国四川話英語教科書』1917)

(2-16) 咋个 进 得 倒
 どのように 入る 方向補語
 馆子 嘛?
 レストラン 語気助詞
 (どうやって店に入ることができるの?)
 (『两代滄桑』2015)

(2-17) 我 作 不 倒 主。
 わたし する 否定を表す 結果補語
 主 / 責任者
 (わたしの一存では決められない。)
 (『成都話方言詞典』1987(1-3)再揭示)

(2-18) 黄鱔 泥鳅 儿 扯 不
 田鰻 泥鰻 ひっぱる 否定を表す
 倒 一样长。
 方向補語 同じ長さ
 (どうしても完全な公平がない。)
 (『中国語言文化典蔵 成都』2022)

(2-15) (2-16) では、“得”が使われているので、“倒”が表す結果が可能であることを示した。(2-15)の“倒”は結果補語であり、さがす物が見つかる結果を示した。普通話(共通語)の“到”に相当する。(2-16)の“倒”は方向補語であり、外から中への移動を表す。普通話(共通語)の“去”に似ている。(2-17) (2-18) では、“不”が用いられたことから“倒”が表す結果が不可能であることを示した。(2-17)の“倒”は結果補語であり、一人で決定することができない意味を表す。(2-18)の“倒”は方向補語であり、田鰻と泥鰻が引っ張られても、同じ伸びる状態と同じ長さになれないことを表した。なお、この例文は俗語であり、比喩的に公平性がないことを示している。

3. 助詞としての意味・用法

普通話(共通語)では“V着”で動作の進行や状態の継続を表すが、成都方言においては“V倒”を用いる。『現代漢語詞典 第7版』(2016:1661)では、“着 [tʂə]”について4種類の意味・用法を持つと示している。①助詞として、動作の持続を表す；②助詞として、状態の持続を表す；③助詞として、動詞または程度を示す形容詞の後ろに置かれて、命令や言いつけなどの語気を強める；④特定の語にくっつき、介詞となる。先行研究では、①②の意味・用法について、“倒 [tau⁵³]”と“着 [tʂə]”が対応していると考察した(李2008、熊進2006など)が、本研究は③④及び成都方言独自の意味・用法についても分析したい。

(2-19) 不要 东看西看的, 好生
 ~しないで きよろきよろ 真面目に
 听 倒。
 聞く ~ている
 (きよろきよろしないで、真面目に聞きなさい。) (『成都方言詞典』1998)

(2-20) 把 这个 拿 倒
 ~を これ 持つ ~ている
 (これを持って) (『西蜀方言』1900)

(2-21) 她(中略)坐 倒 念经,
 彼女 座る ~ている 読経する
 喊 我 站 倒 捶背。
 ~させる わたし 立つ ~ている
 肩を叩く

(彼女は座って読経しているが、わたしに立たせて肩たたきをさせる。)

(『兩代滄桑』2015)

(2-22) 说 倒说倒, 这位 大嫂
 話す ~ている この おばさん
 一把 鼻子 一帕 泪。
 一掴み 鼻水 一丁 なみだ
 (話しながらこのおばさんは顔をくしゃくしゃにしてさめざめと泣きだす。)
 (『兩代滄桑』2015)

(2-23) 饿 倒饿倒 又 不
 お腹がすく ~ている また ~しない
 觉得 饿 了。
 思う ~た
 (お腹がすいているうちに、空腹感がわからなくなった。)

(張・張・鄧2001)

(2-24) 有的 面前 围 堆堆, 有的 估
 ある 目の前 囲む 群れ 無理やり
 倒 拉 人……
 ~ている 引っ張る 人
 (人がたくさん集まっている露店もあれば、無理やり客引きをしている露店もある。)
 (『兩代滄桑』2015)

(2-19) では、“倒”は動詞の後ろに置かれ、聞く動作を持続することを表す。(2-20)は処置文、動作の対象が動詞の前に置かれている。“倒”は動詞の後ろに用いられ、持つ動作を持続することを表す。なお、(2-19) (2-20)においては、“倒”は助詞として、それぞれ命令や言いつけ語気を強めている。

(2-21)では、“倒”は動詞の後ろに用いられ、座るまたは立つ状態の継続を表す。動詞“坐(座る)”と“站(立つ)”は姿勢を表す動詞で、静的動詞に属する(戴耀晶 中国語版1997、日本語版2021)²¹。また、「静的な性質が比較的強く、動的要素が比較的弱い」ため、「下去(降りて行く)」、「下来(降りて来る)」のような動きを表す形式の助けがない限り、この種の動詞が述語である文は静的な姿勢しか表し得ない(戴2021:19)。この例文においても、“坐倒”“站倒”は静的姿勢であり、それぞれ後ろの“念经”“捶背”の状態語にあたる。

(2-22)では、“V倒V倒”の形で動作の進行を表している。張・張・鄧(2001:69)によれば、この形の構文は、「動作が進行する際、ある種の変化が発生することを表す」。例えば、“哭倒哭倒又笑了(泣いているうちに、また笑い出した)”、“跳倒跳倒就不见了(跳んでいるうちに消えてしまった)”などである。(2-22)の文を見ると、おばさんが話しているとき、途中泣き出したことが分かる。なお、『西蜀方言』(1900)には例文があるが、『民国四川話英語教科書』(1917)では例文が見当たらなかった。『西蜀方言』(1900)の場合、“**試倒試倒的**(試しながら)”の1例のみで、後文がないため、動作進行中何らかの変化が生じるかどうかは判断できない。ただし、“V倒V倒”の形で動作の進行を表すことが分かる。一方、(2-23)は、同じく“V倒V倒”の形で、“倒”は動詞の後ろに置かれているが、(2-22)の動詞は動態動詞に対して、(2-23)の“**餓**(お腹がすく)”は静態動詞である。ただし、動詞が静態動詞の場合、動作の進行を強調するのではなく、動作による状態の持続を表している。

(2-24)では、“倒”は動詞の後ろに置かれ、動作の進行や状態の持続を表す意味・用法にあたるが、(2-19)や(2-20)などとやや異なる。動詞の“**估**[ku⁵³]”は「強迫する、強制する」の意味を表し(『成都方言詞典』1998:64)、“倒”はその動作の進行を示すが、“**估倒**”も「強迫する、強制する」の意味になり、“**估**”一文字の場合と変わらない。これについて、張・張・鄧(2001:20)では、“**估倒**”の“倒”は接辞であると指摘している。確かに現在の使用においては、“**估倒**”は一語として用いる場合が多く、“倒”の語彙的意味がなくなるだけでなく、文法的機能も薄れつつあるが、最初の成り立ちとしては“倒”は動詞の後ろに置かれ、動作や状態の持続を表すことである。具体的に“**估倒**”の“倒”は他の接辞との異同については今後の機会に譲る。なお、これと同じく文法化している語としては“**马倒**「虐げる、威圧する」”、“**阴倒**(隠忍する)”などがあげられる。普通話(共通語)にはこのような意味・用法がない。

Ⅲ. おわりに

本研究では、成都方言における“倒 [tau⁵³]”について、その意味・用法に着目し、先行研究などを踏まえながら、品詞別に分け、普通話(共通語)との対照にも触れつつ考察・分析した。まず、品詞について、成都方言における“倒”は基本義の動詞のほか、補語、助詞として用いられるが、助詞として用いる際、“倒”の語彙的意味がなくなるだけでなく、文法的機能も薄れるケースがある。その場合、“倒”は接辞的な使い方で、前の動詞と組み合わせて一語となる。例えば、“**估倒**「強迫する、強制する」”、“**马倒**「虐げる、威圧する」”などである。なお、普通話(共通語)にはこれと同じ意味・用法がない。次に、“倒”の具体的な意味・用法について、以下のことが明らかになった。

“倒”は基本義の動詞である場合、普通話(共通語)の“倒 [tau²¹⁴]”が持つ「倒れる、横になる」や「(店などが)つぶれる、(事業などが)失敗する」意味を有する。一方、成都方言独自の意味・用法も持っている。普通話(共通語)の“倒”は自動詞の意味・用法であり、他動詞的に用いる場合、ほかの動詞と組み合わせて複合動詞の形にする必要がある。例えば、“**打倒**(打ち倒す)”、“**推倒**(押し倒す)”などである。成都方言の場合、「倒れる/倒す」といった自動詞的・他動詞的両方の意味・用法を持っている。また、成都方言には、動詞としての“倒”がほかの要素と組み合わせ、比喩的な活用や慣用句的な語句が複数存在している。

“倒”は補語として用いる場合、方向補語と結果補語の意味・用法を持つ。方向補語の場合、“倒”は動詞の後ろに置かれ、①高い位置から低い位置へ、上から下への移動を表す。普通話(共通語)の方向補語“下”に相当する。②人または物が動作とともにある場所へ到達したことを表す。普通話(共通語)の“到”に相当する。③動作がいつまで継続するのか、その時点を示す。これも普通話(共通語)の“到”に相当する。なお、今回は動作や状態が到達した程度を表す“倒”の例文が見当たらなかったため、成都方言においてはその意味・用法があるかどうかは不明である。一方、

結果補語の場合、“倒”は動詞や形容詞の後ろに置かれ、動作が目的に到達したことや動作・行為がもたらす結果などを表すことができる。普通話（共通語）の“倒 [tau²¹⁴]”の意味・用法に似ているほか、“住”、“到”、“着 [tʂau³⁵]”とも対応させることができる。よって、成都方言における結果補語としての“倒”は多義であることが分かる。なお、動詞と補語は生産的な結びつきで、本研究で考察した以外の対応もあると推測できる。さらに、中国語の可能表現には、方向補語と結果補語から派生してできたものがある。動詞と、方向補語または結果補語の間に、肯定の場合は“得”、否定の場合は挿入“不”を挿入する。つまり、「V+得/不+方向補語/結果補語」の形となる。成都方言にいても「V+得/不+倒」の形で“倒”が示す結果が実現可能かどうかを表すことができる。

“倒”は助詞として用いられる場合、よく普通話（共通語）“着 [tʂə]”と対照され、動作の進行や状態の持続を表すことにおいては、成都方言の“倒”は普通話（共通語）の“着”と同じである。また、“V倒”の後ろにさらに動詞（句）がある場合、“V倒”はその状態語となることができる。“V倒V倒”の構文では、現代成都方言の場合、動作が進行する際、ある種の変化が発生することを表す。なお、動詞が静態動詞の場合、動作の進行を強調するのではなく、動作による状態の持続を表す。また、前述の“倒”の接辞化現象は普通話（共通語）にはないものである。

今回は成都方言における“倒 [tau⁵³]”の文法的機能について考察したが、方言辞書などでも示したように、成都方言の“倒”は二種類の読み方があり、それぞれ意味・用法を持っている。今後は“倒 [tau²¹³]”について考察したい。また、今回の言語資料では例文が見当たらないこともあったが、実際にその意味・用法が使われていないのか、それとも例文の量が限られて掲載されていないのか、今後さらに用例を増やす必要がある。

注

1 倒 [tau⁵³]：『成都話方言詞典』（1987）では、漢字の読み方は [tau⁵³] のように国際音声記号で示している。本研究もこれにしたがう。

- 2 日本語訳については、筆者によるものは（ ）に入れてあり、元々日本語訳が付いているものは（ ）を使わない、または「 」で示す。以下も同様。
- 3 倒 [tau⁵³]：『成都方言詞典』（1998）では特別記号を使用しているが、便宜上、表記を統一し、声調記号ではなく、声調の値を表す数字を使用する。
- 4 起 [tɕi⁵³]：注3と同じように、声調の値を表す数字を使用し、有気音は「^h」ではなく「^h」に統一した。
- 5 実詞：「事物・動作行為・性質・状態など、実質的かつ具体的な意味を持ち、単独で文法成分になることができる語。』『中国語学辞典』（2022:240）
- 6 虚詞：「実詞のような実質的・具体的な意味を持たず、単独では文法成分になることができず、専ら文法的な意味や倫理関係を表す文法的な機能語ことを指す。』『中国語学辞典』（2022:123）
- 7 アスペクト助詞は、動詞のある種の文法的意味、すなわちアスペクトを表す。“着”は動作の進行・状態の持続を表す。（王占華（2004）『中国語学概論（改訂版）』駿河台出版社、p.142）
- 8 動態動詞：「アスペクト的観点から分類した動詞カテゴリーの1つで、一般に人や物の動作や状態の変化を表す動詞のことを指し、静態動詞に相対する。』『中国語学辞典』（2022:342-343）
- 9 静態動詞：「アスペクト的観点から分類した動詞カテゴリーの1つで、人や物の状態や性質、心理・感覚を表す動詞を指し、動態動詞に相対する。』『中国語学辞典』（2022:469）
- 10 趨向動詞：動詞の下位分類、遠いところから近いところへ、近いところから遠いところへ、低いところから高いところへ、高いところから低いところへ、中から外へ、外から中へなどの方向またはその他の虚化意味を表す。単純と合成の二種類ある。単純方向動詞は“来、去、**进**、出、上、下、回、**过**、起”など。複合方向動詞は単純方向動詞より組み合わせられ、例えば“**进来**、**进去**、出来、出去、上来、上去、下来、下去”などがある。（『現代漢語詞典（第七版）』商務印書館、p.1078:動詞の附類、表示从近到远, 从远到近, 从低到高, 从高到低, 从里到外, 从外到里等**趋向**或其他虚化的意义, 分**单纯的**和合成的两种。**单纯的趋向动词**是“来、去、**进**、出、上、下、回、**过**、起”等。合成的**趋向动词**由**单纯的趋向动词**组成, 如“**进来**、**进去**、出来、出去、

- 上来、上去、下来、下去”等。)
- 11 N_L: 場所名詞
- 12 介詞: 「種々の格関係をはじめとする動作行為に関連する名詞句(ときには動詞句や形容詞句)と述語動詞との意味的關係を示す語。」『中国語学辞典』(2022:370)
- 13 インフォーマントとして成都方言のネイティブスピーカーにご協力いただいた。20代2名(男1名、女1名)、30代2名(男1名、女1名)、40代2名(男1名、女1名)、50代2名(男1名、女1名)、60代2名(男1名、女1名)の計10名、いずれも成都生まれ成都育ち、成都市外で半年以上の居住歴がなく、家庭内も成都方言を使用している。
- 14 白話: 漢語文語の一種。唐宋以来、口語に基づいて形成されたもので、最初は通俗文学作品に用いられ、“五・四運動”後普遍的に使用され、現代漢語(普通話)の文語形式となった。《現代漢語詞典(第七版)》商務印書館、p.24: 汉语书面语的一种。它是唐宋以来在口語基础上形成的, 起初主要用于通俗文学作品, 到五四运动以后才在社会上普遍应用, 成为现代汉语(普通話)的书面形式。)
- 15 四川方言: 北方方言である西南官話の一種、主に四川省や重慶市およびその近隣地域に分布している。《四川方言与文化》且志宇著、中国国際广播出版社、p.15: 作为北方方言西南官話的一支, 四川方言的地域范围大致包括了四川、重庆以及周边省份临近地区。)
- 成都方言: 四川方言に属す。成都方言の音韻は四川方言において比較的に簡単で最も普遍性があり、語彙や文法の面においても四川方言の中で代表的である。通常、成都方言は四川方言の代表として扱われている。《成都方言語法研究》張一舟、張清源、鄧英樹著、巴蜀書社、pp.6-7: 成都話音系在四川話中属于较为简单且最具普遍性的一类。(中略) 词汇、语法方面在四川話中也具代表性。(中略) 通常把成都話作为四川話的代表。)
- 16 『文法の調査と研究のためのハンドブックー中国域内言語の視点からーI 構文論』(2022): 『語法調査研究手冊(第二版)』(劉丹青著、上海教育出版社、2017年)の日本語による全訳本。本研究は主に日本語版を参照したため、以下は劉(2022)と記す。
- 17 東京外国語大学言語モジュール
<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/gmod/contents/explanation/029.html> (最終閲覧日 2024年4月15日)
- 18 『文法講義 朱德熙教授の中国語文法要説』(1995): 『語法講義』(朱德熙著、商務印書館、1982年)の日本語による全訳本。本研究は主に日本語版を参照したため、以下は朱(1995)と記す。
- 19 『中国語文法用例辞典(現代漢語八百詞増訂本日本語版)』(1992): 『現代漢語八百詞』(呂叔湘主編、商務印書館、1980年)の日本語による全訳本。本研究は主に日本語版を参照したため、以下は呂(1992)と記す。
- 20 南方方言: 南方は中国の南方地域を意味し、中国の四大地理区分の一つであり、主に秦嶺-淮河線より南の地域を指す。西はチベット高原にあり、東と南は東シナ海と南シナ海に面している。その地域に使われている方言は、西南官話、江淮官話、湘語、贛語、粵語、閩語、客家語が含まれている。
- 21 『現代中国語アスペクトの体系的研究』(2021): 『現代漢語時体系系統研究』(戴耀晶著、浙江教育出版社、1997年)の日本語による全訳本。本研究は主に日本語版を参照したため、以下は戴(2021)と記す。

参考文献

- (1) 日本語
 王占革・一木達彦・苞山武義(2006)『中国語学概論』駿河台出版社
 朱德熙(1995)『文法講義 朱德熙教授の中国語文法要説』杉村博文・木村英樹訳、白帝社
 戴耀晶(2021)『現代中国語アスペクトの体系的研究』、関西大学出版部
 日本中国語学会編(2022)『中国語学辞典』、岩波書店
 熊進(2006)『成都方言の文法研究ー文法化のアプローチ』博士論文、早稲田大学
 劉丹青(2022)『文法の調査と研究のためのハンドブックー中国域内言語の視点からーI 構文論』杉村博文訳、日中言語文化出版社
 呂叔湘主編(1992)『中国語文法用例辞典(現代漢語八百詞増訂本日本語版)』牛島徳次・菱沼透監訳、東方書店
- (2) 中国語
 李榮等(1998)《成都方言词典 现代汉语方言大词典・

分卷》江苏教育出版社

李苑 (2008) “成都话的“倒”和“起””《语言应用研究》, 80-81 页

罗韵希等 (1987)《成都话方言词典》四川省社会科学院出版社

罗自群 (2006) “汉语方言读上声的持续标记“倒””《语言研究》第 26 卷第 1 期, 30-35 页

王文虎、张一舟、周家筠 (2014)《四川方言词典》四川人民出版社

吴福祥 (2002) “南方方言里虚词“到(倒)”的用法及其来源”《中国语文研究》第 2 期, 28-46 页

张清源 (1991) “成都话的动态助词“倒”和“起””《中国语言学报》第 4 期, 84-101 页

张一舟、张清源、邓英树 (2001)《成都方言语法研究》巴蜀书社

周宗富 (2015)《两代沧桑》白山出版社

中国社会科学院语言研究所词典编辑室 (2016)《现代汉语词典 第七版》商务印书馆

(3) 中国語と英語

Kilborn, Omar L. (1917) *Chinese Lessons for First Year Students in West China*. Published by The Union University (《民国四川话英语教科书》四川人民出版社)

Grainger, Adam (1900) *Western Mandarin*. Shanghai (《西蜀方言》上海大学出版社)